

分類	説明項目	区分	説明内容	説明予定	説明状況	回答方針	5/31審査会合案件 ○:付議 ×:見送り △:一部付議	特に丁寧な回答が 必要なコメント	優先度 ○:高いもの
耐津波	1 鋼製防護壁の止水機構の地震時における追従性	○	① 止水機構の追従性に係る2次元及び3次元の解析結果	4/中	5/8 5/22	動的解析結果から、止水機構の止水板の追従性に問題ないことを示す。	○	○	○
			② 止水機構の追従性に係る実証試験(加振試験)結果	5/下	5/22	実証試験の結果、止水機構の止水板の追従性に問題ないことを説明する。	○	○	○
耐震	2 可搬型設備の耐震性	○	① 加振波のFRSが保管場所のFRSを包絡していること	4月5日	完了(4/5)	—	—	—	—
			② 加振試験結果	4月5日	完了(4/5)	—	—	—	—
	3 機器の動的機能維持評価	○	① 抽出した評価対象部位に係る地震時の動的機能維持の評価結果	4/下	5/18	地震時異常要因分析に基づき抽出された評価対象部位の評価の結果、動的機能維持に問題ないことを説明する。	○	—	○(合意済)
			② 解析モデル長さの影響確認結果(解析モデル長さ2.0m及び2.5m)	4/下	5/25予定	5/25ヒア状況を見て判断	△	—	—
			③ スタンドパイプ225本モデルにおける補強板が解析に与える影響	—	5/25予定	5/25ヒア状況を見て判断	△	—	—
			④ 引張試験における荷重(モーメント)の比較	—	5/25予定	5/25ヒア状況を見て判断	△	—	—
	4 スタンドパイプの耐震評価	○	⑤ ドライヤスカート部との干渉に係る解析上の扱い	—	5/25予定	5/25ヒア状況を見て判断	△	—	—
			⑥ 設置変更許可段階で示した「敷地全体の原地盤の液化強度特性」の代表性及び網羅性	4/中	3/22 4/16 5/14	追加液化強度試験結果の代表性・網羅性について説明する。	○	○	—
	5 設置変更許可段階で示した解析用液化強度特性の代表性及び網羅性	○	⑦ 使用済燃料乾式貯蔵建屋を個別の評価対象とした根拠(3つの建屋を除外した理由も含む)及び地盤改良の有無	—	5/7 6/下予定	個別の評価対象となる建屋構造物の現状について報告する。	△	○	—
			⑧ 原子炉建屋の主トラスについて、発生する応力が許容限界を超えないことの確認結果	4月5日	完了(4/5)	—	—	—	—
外部事象	6 降下火砕物に対する建屋の健全性	○	⑨ 3次元FEMにおける鉄骨材とスラブの拘束条件、実際のスラブの応力、歪の分布、鉄骨材とスラブの接合部の状態を示す	—	4/19 4/27 コメント回答済	鉄骨材とスラブの拘束条件、実際のスラブの応力、歪の分布、鉄骨材とスラブの接合部の状態を示す。また、屋根スラブ及び鉄骨と屋根スラブの接合部に、軸応力による影響はないことを示す。	○	—	規制庁殿預かり
			⑩ 強度評価方針として、適用基準は保守側を採用することに対して、応力係数について現実的な値(0.5)を採用することの考え方	—	完了(4/26)	ASMEの改訂経緯を示し、今回の評価において合理的な値を採用する。	○	—	○(合意済)
機械設計	7 SA時の強度評価における設計方針	—	⑪ SA時機械荷重(ジェット荷重や主蒸気逃がし安全弁の吹き出し反力)を定量的に算出し、順次計算結果を示す	—	5/下より順次	—	△	—	—
	8 SA時の強度評価における設計条件(SAクラス2機器であって、クラス1機器の設計条件)	—	⑫ 建設時の設計条件を使用することを含め、強度評価条件の妥当性を示す	—	完了(4/19)	先行審査同様に、重大事故等時の評価条件を上回る条件を用いることで保守的な評価を行う。	○	—	○(合意済)
機械設計	9 強度評価におけるPCV動荷重の考慮	○	⑬ 設計基準事故時の動荷重に包絡されること等の確認結果	—	完了(4/24)	—	○	—	—
			⑭ DBA・SA時のPCV動荷重を決定する要素を定量的に説明	—	4/24 (コメント対応中)	東二の実機試験結果やSA時の蒸気流量等のパラメータを基に、SA時のPCV動荷重がDBAに包絡、または影響がないことを示す。	○	○	Hold
	10 SA環境を考慮したPCV閉じ込め機能	○	⑮ 圧縮永久ひずみ率のデータ拡充による閉じ込め機能の評価値の妥当性	4月5日	完了(4/5)	—	—	—	—
			⑯ ガスカート増厚による閉じ込め機能の評価における開口量評価の裕度	4月5日	完了(4/5)	—	—	—	—
	11 フローアウトパネル及び関連設備の必要機能と確認方法	○	⑰ フローアウトパネル開放の実証試験結果	5/下	6/上予定 (追加クリップ試験反映)	△	—	○(状況報告)	
			⑱ フローアウトパネル閉止装置の実証試験(加振試験)及び開閉動作試験、気密性能試験の結果	6/中	6/下予定	△	—	○(状況報告)	
⑲ フローアウトパネル本体の品質・施工管理、保守管理等			—	4/26、5/10 (コメント対応中)	○	—	—		
⑳ 設計差圧(6.9kPa)以下で開放する設計(設定値)について、クリップ開放試験結果等を踏まえた考え方			—	4/26、5/10 (コメント対応中)	—	—	—		
㉑ 強制開放装置の位置付け	—	4/26、5/10 (コメント対応中)	—	—	—				
㉒ フローアウトパネルの要求事項(考慮すべき自然現象発生後にDBAが発生する場合、逆にDBA後に自然現象が発生する場合を整理し、公衆被ばくの影響の観点から整理)	—	4/26、5/10 (コメント対応中)	—	—	—				
機械設計	12 SRVのSA耐環境性	○	⑳ SA時の原子炉格納容器内におけるSRV作動環境	4月5日	完了(4/5)	—	—	—	
			㉓ SRV(自動減圧機能)の耐環境性	4月5日	完了(4/5)	—	—	—	
			㉔ 非常用途がし安全弁駆動系の耐環境性	4月5日	完了(4/5)	—	—	—	
			㉕ 過去のSRV環境試験条件について対象の機器を明確にして資料に反映	—	4/19(コメント対応中)	○	—	—	
			㉖ 健全性の説明書の中でその他のSA耐環境性について整理・説明	—	5/下予定	○	—	—	
	13 MCCI/FCI対策に係る設計	○	㉗ 工認対象範囲	—	完了(4/27)	ヒアリングを通じた工認上の取扱い整理表の説明	○	—	—
			㉘ モックアップ試験結果	5/下	5/下予定	試験条件(異物試験含む)、装置概要、試験進捗状況、それまでに得られた結果概要とその考察	△	○	○
			㉙ コリウムシールドのドレン水貯蔵機能	—	完了(4/27)	①に合わせて説明(①の中で整理されている)	○	○	○
㉚ コリウムシールドライナーの工認上の記載	—	完了(4/27)	①に合わせて説明(①の中で整理されている)	○	○	○			
㉛ モックアップ試験における異物混入を想定した試験条件	—	完了(4/25)	②に合わせて説明	○	○	○			
㉜ コリウムシールドの施工性	—	完了(4/27)	施工ステップごとの図を用いた説明	○	○	○			

区分	○	設置許可引継ぎ事項
説明内容	白丸数字	前回の審査会において、今後の予定として示したもの
	黒丸数字	前回の審査会において、ご指摘を頂いたもの
説明予定		前回の審査会において、今後の予定時期を示したもの
説明状況		審査会及びヒアリングにおいて、説明している状況を示す

分類	説明項目	区分	説明内容	説明予定	説明状況	回答方針	5/31審査会合案件 ○:付議 ×:見送り △:一部付議	特に丁寧な回答が必要なコメント	優先度 ○:高いもの
耐津波	14 防潮堤ルート変更後の敷地遊上津波の浸水深・流速	○	-	-	-	-	-		
耐震	15 鋼製防護壁の上部・下部構造の接合部の評価	○	① 三次元解析(COM3)の評価結果	5/E~6/M			×		
	16 立坑構造物の解析モデル変更	○	① 6つの立坑構造物に係る解析条件	5/E			×		
			② 解析モデルの変更がない円筒形立坑の解析結果	6/E			×		
			③ 解析モデルの変更を伴う矩形立坑の解析結果	7/E			×		
	17 原子炉建屋基礎壁の耐震評価	○	① 局所応力の取扱い、許容限界の説明方針および評価結果	6/E	5/29~		×		
			② せん断終局強度を適用することの妥当性(今回工認、東二建設時、他サイトのSクラス基礎の設計クライテリアの違いを考慮した説明)	6/E	5/29~		×		
18 地震観測記録を踏まえた耐震評価への影響	○	① 観測記録がシミュレーション解析結果を上回ることに対する設備影響評価結果	6/E	6/M		×			
		② 使用済燃料プール周辺の3次元応答性状が使用済燃料プールの評価に及ぼす影響	6/E	6/M		×			
19 機器の動的機能維持評価(弁の高振動数領域の考慮)	○	① 高振動数領域まで考慮した評価結果	6/E			×			
機械設計	20 ECCSポンプのSA時でのNPSH評価	○	① 試験結果および評価結果		6/E		×	○	
			② 試験の再現性(投入異物の攪拌・静定させ、一定の圧力損失データが得られることの見解)について示すこと。		5/22		○	○	○
			③ 試験手順について示すこと。		5/22		○	○	○
			④ 試験の進捗状況、見直しについて具体的に示すこと。		5/22		△	○	○
	21 SM材の使用制限(2.9MPa)を超えた範囲での使用	○	-	-	-	-	-	-	
	コメ回答 ブローアウトパネル及び関連設備	○	① BOP実機大モックアップ試験時の地震荷重の考え方(固有値)について示すこと。				・BOPの固有値について評価又は実機大モックアップの固有値測定により提示し、固有値に対応する地震加速度相当で開放しないことを確認旨を説明	○	○
② 設計基準事故とBOPを開放させる地震の組合せに関連し、確率の出典について示すこと。						・東二のPRA(LOCA発生頻度)及び年超過確率(Sd)について説明	○	○	○
③ 実機大モックアップ試験時の予備品の考え方、リスク管理について説明すること。						・予備試験体(試験体3)の使い方について説明(例えば、試験体2が計画通りだった場合、試験体3はどんな試験を実施するのか、しないのか)	○	○	○
④ リスク管理の試験スケジュール(クリップ幅変更等)をスケジュール追加すること。						・クリップ試験幅を変更した場合のクリップ試験計画をスケジュールに反映	○	○	○
⑤ 実機大のモックアップ(BOP本体、BOP閉止装置)試験前に試験条件を説明すること。						・試験条件について説明	○	○	○
⑥ 設計基準事故と地震の組合せについて、発生確率から組合せが必要となる時期を求めて、被ばく評価を実施する意味が不明。DBとしては設計基準事故+Sdで十分であり、これを超える条件での評価に意味はなく、要求もされていないため、よく考えること。							・MCR被ばく以外は、Sdで開放しない設計 ・MCR被ばく評価の場合、ソースタームが仮想事故想定であるため、公衆被ばく評価で取り扱う事故とは位置づけが異なるものであり、本ソースタームに対してブローアウトパネルの開放を想定する必要はない旨を説明	○	○